

HT25184

【プログラム名】数学で解き明かす自然と社会：放射能、人口爆発、そしてカオス



開催日	: 平成25年7月28日
実施機関 (実施場所)	: 関西学院大学工学部
実施代表者 (所属・職名)	: 山根英司(理工学部・教授)
受講生	: 高校生 21名
関連URL	:

【実施内容】

【プログラムで留意、工夫した点】

午前の講義ではまず等比数列を導入した。1年生もいるのであるべく記号を使わず、例を与えて説明した。(公比が1より大きいとき)等比数列が急激に増えることを述べ、例としてドラえもののパイパインの話や借金の複利およびPCRの話をした。次に原子核の構造と放射性物質の崩壊について簡単に説明し、半減期について述べた。特に炭素14の半減期を強調した。これに基づいて放射性炭素年代測定法を説明した。最後に、ファン・メーヘレンによるフェルメール贋作事件について述べた。全体に数学そのものより応用を重視して、高校生の興味を引くように心がけた。

午後の実験では、まず基本事項として等比数列を復習し、これが指数的増加をすることに触れ、応用として人口増加問題が考えられることを説明した。さらにその発展として、増加率が飽和するロジスティック写像のことを説明した。ロジスティック写像にはカオス解が存在するが、このことを参加者自ら手を動かして体験してもらった。また、解が収束する集合であるアトラクターについても触れた。カオスやアトラクターなどの具体例を表計算ソフトで実際にプログラムを組んで理解してもらった。最後にアトラクターの具体的な事例として、メトロノームの同期実験を体験的に行ってもらい、これが大変好評であった。

【当日のスケジュール】

以下の順序で業務を実施した。

9:30-10:00	受付開始、開場
10:00-10:20	オリエンテーション(一日の説明、教員・実施協力者の紹介、学科・研究室紹介)
10:20-10:30	科研費と本事業の関係に関する説明
10:30-11:30	講義「等比数列で判る放射能と年代測定」(講師:山根 英司)
11:30-12:30	昼食・教員・大学院生との懇談
12:30-15:00	実習「コンピュータ・シミュレーションで探る人口爆発とカオス」(講師:大崎 浩一)
15:00-16:00	何でも相談所
16:00-16:15	修了式、未来博士号授与、アンケート記入
16:15	解散

【実施の様子】



【事務局との協力体制】

事務局とはプログラムの準備段階から密に連絡を取って計画を立てた。また、参加者名簿の作成や、プログラム当日の参加者の受付・案内・誘導等の作業については、事務局を中心に進めた。

【広報体制】

案内のチラシを作成し、近畿圏の各高等学校及び全国の本学部指定高等学校に配布した。また、関西学院大学ならびに理工学部のホームページにも掲載した。広報室と入試部を通じても情報提供した。

【安全体制】

パソコンを使うだけなので、特に気にすることはなかった。

【今後の発展性・課題】

数理科学における最新の研究成果を高校生向けに易しく説明するためにはさらなる工夫が必要と感じているが、最先端の研究分野に触れることにより、受講者の知的好奇心を大いに刺激できたものと考えている。本事業を今後とも継続的に実施することは必要であると感じた。

【実施分担者】

大崎浩一(理工学部・教授)
川中宣明(理工学部・教授)
関 宏理(理工学部・契約助手)

【実施協力者】 _____ 5名

【事務担当者】 池部 雅崇 研究推進社会連携機構事務部・書記